

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本城会	代表者	永野 三代子	法人・ 事業所 の特徴	新しく開発された「ひびきの」の街の中にあり、来年度小学校が開設予定です。施設は、地域密着型で、特別養護老人ホーム、グループホームが併設されています。施設内の合同行事は、季節に応じた催しやレクリエーション等を楽しんでいます。出来る限り最後まで在宅生活ができるよう、ご利用者の心身機能の維持向上を目指したケアプランに力を入れております
事業所名	ひびきの虹色館 小規模多機能型居宅 介護	管理者	福島 智子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	0人	0人	1人	1人	4人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度の評価の時に自己評価が同じ結果にならないよう職員一人一人が目標を持って、仕事をするべきではないか。</li> <li>シート作成が多いが、シート作成が負担にならないよう配慮して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が一年の目標を立て業務にかかる。</li> <li>シート作成は、既存のシートをベースに必要に応じて独自の書式に変更する。全職員が共有してケアに活かすことが出来ることを目指す。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議以外で、施設の中に入る機会が無いので、施設の中のことが分からない。他事業所のグループホームでは、運営推進会議をユニットのフロアで行うことで、施設の様子が分かるような工夫があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議の時に、事業所を見学する時間を作る。</li> <li>会議の場所をサロンのみでなく他事業所も設定する。</li> <li>行事等の日程に合わせて会議を行うことで、日頃の様子も見て頂けるよう工夫する。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と施設との関係性ができていないので、なかなか施設の中に入りづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事に積極的に参加するために自治区会との交流を図る。次年度も施設行事に地域の方を招待し、継続的に地域との交流を図る。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的に若松の範囲が広く、利用者が住んでいる地域や近所の方を把握できていないことが現状である。近所の方との関わり方が分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者一人一人の「私の支援マップシート」を作成し、本人を支えている家族、地域馴染みの人や物を把握することから始める。</li> </ul>

E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>施設に小多機能がある事を知らない。小規模多機能型居宅介護がどんなサービスが使えるのか分からない。情報を得るところが無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に参加するメンバー構成について検討し、広い視野を持って取り組んでいく 例；消防署、商業、老いを支える家族の会、ボランティアなど</li> </ul>
F. 事業所の 防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との防災訓練を実施するにはどうしたらよいか分からない。</li> <li>施設では、毎年、消防署から講師を呼んで、防災・災害対策の研修を実施しているが、時間帯が遅く、地域住民は参加しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年の防災・災害対策の研修に地域住民を含めた研修を計画し実地する</li> <li>応急措置訓練（心肺蘇生、A E D）の実施</li> </ul>